

令和5年度 学校評価 自己評価書(2学期)

1 学校の重点目標

- 分かる・できる,そして考える授業づくり
- 立腰(時・場・礼)を揃える
- 体力向上(ちょトレ・縄跳び)
- 服務規律の厳正確保

2 自己評価結果と課題・改善策

【評価の目安：4段階評価での達成率の平均値】

4=80%以上達成 3=79%~50%以上 2=49%未満~25%以上 1=24%未満

<自由記述について>○…成果, △…課題 ●…改善策		1学期	2学期	3学期	
学校経営ブランドデザイン	チーム夢の里		/	/	/
	1	全職員が一丸となった教育活動が実施されているか。	3.1	3.1	
	2	保護者・地域との連携が図られているか。	3.0	3.2	
	説明責任		/	/	/
	1	分かる・できる,そして考える授業づくりで,学力向上が図られているか。	3.1	3.1	
	2	「立腰を揃える(時・場・礼)」の徹底で落ち着きのある学校になっているか。	2.9	2.6	
	3	教科体育等において,ちょトレ・なわとび・立腰等を実施することで,体力向上が図られているか。	2.9	3.1	
	4	子どもの命を守り抜く保健・給食・安全指導の徹底がなされているか。	3.1	3.1	
	5	服務規律の厳正確保がなされているか。	3.5	3.6	
	効率化		/	/	/
	1	学校として効率化(業務改善)が図られているか。	2.9	3.1	
	2	あなた自身は効率化(業務改善)に取り組んでいるか。	3.0	3.1	
	3	授業準備及び事務処理等の時間の確保がなされているか。	2.9	2.9	
	人権尊重		/	/	/
	1	一人一人を大切にした学級・学校づくりがなされているか。	3.1	3.1	
	2	笑顔に満ちた楽しい授業が行われているか。	2.9	3.1	
	3	道徳教育の充実で思いやりの気持ちを育むことができているか。	3.0	3.2	

校務	1	報連相を確実にを行い、関係機関等の調整をして、計画的に提案できたか。	3.2	3.3	
	2	実施事後は、速やかに反省を行い、来年度の教育課程に位置付けることができたか。	3.1	3.1	
学習指導	1	分かる・できる（知識・技能）授業づくりを行ったか。	3.2	3.3	
	2	考える（思考力・判断力・表現力）授業づくりを行ったか。	3.0	3.2	
	3	三角ロジック（事例+理由付け）を生かした授業づくりを行ったか。	3.1	3.2	
	4	タブレット等教育機器を活用した授業づくりを行ったか。	3.1	3.3	
生徒指導	1	個に応じた相談活動や指導及び職員間の情報交換や連携、迅速な対応や継続的な指導ができていたか。（不登校傾向・いじめ傾向等）	3.1	3.3	
	2	特別な支援を要する子どもに対して、個に応じた指導ができたか。	2.9	3.1	
	3	各種掲示板及び教室等の設営は工夫されているか。	3.1	3.3	
保健・安全	1	健康生活調べや歯磨き、疾病治療等の指導を継続し、成果を上げているか。	3.1	3.3	
	2	マスク着用や手洗いうがいの指導を行い、感染防止に努めることができたか。	3.1	3.3	
	3	廊下歩行や交通安全、遊び方等、自分の命は自分で守る指導を行うことができたか。	3.0	3.1	
研修	1	プロとしての自覚をもち、研修（研究）に意欲的に取り組み、日々の指導に生かしてきたか。	3.2	3.1	
	2	教育センターをはじめ、各種研修会や他校の研究公開等に積極的に参加したか。	2.6	2.6	
管理	1	各教室・特別教室・職員室・机上等の整理整頓に心がけ、安全で機能的な教育環境づくりに努めたか。	3.0	3.1	
	2	諸表簿等の記載や会計、事務処理等は、正確かつ迅速にできていたか。	3.2	3.4	
	3	職員と気楽にコミュニケーションをとり、よい職場環境づくりを行えたか。	3.0	3.1	
広報等	1	学級だよりや各種だより、ブログ・HPの更新等、学校情報を積極的に広報したか。	2.9	3.1	
	2	若い目等、各種作品を積極的に応募したか。	2.1	2.4	

3 次学期に向けての取組

○ 「立腰を揃える（時・場・礼）」の徹底

令和5年度は、「あいさつで共にかがやく夢の里」を児童会テーマとし、あいさつに関する活動に学校全体で取り組んでいる。①時・場・礼の立腰をそろえる。②とまってあいさつをする。③「いしきだいのよい子」を守る。これらの取り組みを通して、落ち着きのある学校で全校児童がいきいきと活動ができるよう引き続き指導を継続していく。また、廊下歩行について全校体制で指導を行っていく。

○ タブレット等教育機器を活用した授業づくり

職員会議や校内研修の時間を活用し、機器を使用する際のルールや情報モラルの指導について、全職員の共通理解のもと、児童への指導を行ってきた。引き続き継続してタブレット等教育機器の適切な取扱いと授業での活用を図っていく。